

○報告事項

教育委員会4月定例会について

○質問項目

1. 県立学校の児童生徒・教職員用タブレット端末等の利用のための Microsoft アカウントの不正削除について
2. 「大阪・関西万博」未来を担う子どもたちの体験学習支援事業について
3. 障害のある生徒の受検にかかる対応について
4. 令和7年3月香川県公立高等学校卒業者の就職内定状況について
5. 県立高校のあり方の検討について
6. 令和7年度香川県公立高等学校入学者選抜学力検査の概評について

司会)

それでは定刻となりましたので、教育長の定例記者会見を始めさせていただきます。

まず、本日開催いたしました教育委員会4月定例会につきまして、淀谷教育長より報告させていただきます。

教育長)

それでは、今年度もよろしくお願いいたします。

本日の教育委員会4月定例会の内容について、ご報告させていただきます。

議案が1点でございます。

専決処分事項の承認についてということで、5月県議会臨時会に提案予定の教育委員会関係議案につきまして、知事からの意見聴取に対し、専決により異議のない旨の回答をしたことの承認を得たものでございます。

その他事項として、3点ございました。

1点目は、令和7年度香川県公立高等学校入学者選抜学力検査の概評についてでございます。

お手元に資料提供させていただいております。

今年3月10日に実施した公立高等学校入学者選抜の学力検査の概評について報告したものでございます。総合点は250点満点で、平均点は昨年より1.5点高い、143.4点となっております。

また、学力検査の概評は、県内の各中学校に周知することとしており、各中学校での学力向上や進路指導に役立てていただきたいと考えております。

2点目は、令和7年3月香川県公立高等学校卒業者の就職内定状況についてでございます。

お手元に資料提供させていただいております。

今年3月末現在の高等学校卒業者の就職内定状況について報告したものでございます。県内の公立高等学校卒業生で、就職を希望した者871名のうち99.5%にあたる867名が内定しており、記録の残る平成9年度以降では、3番目に高い内定率となっております。

3点目は、県立学校の児童生徒・教職員用タブレット端末等の利用のための Microsoft アカウントの不正削除についてでございます。

この件については、4月5日に報道提供しましたが、4月4日に発生した県立学校の児童生徒や教職員が授業等で使用するタブレット端末等の Microsoft アカウントの管理システムが不正に操作され、約1万7,000件余りのアカウントが削除された事案について、現在の状況等を報告したものでございます。

以上が本日の定例会の内容でございます。よろしくお願いいたします。

司会)

それではご質問等ございましたらお願いいたします。

記者)

タブレットですけれども、復旧はまだ。

教育長)

そうですね。捜査も並行してされていますけれども、原因の調査は、今まさにやっているところです。それと復旧にあたっては、さらにセキュリティを高める形でやらないと同じアタックをされてしまいますので、そういったことも含めて知事部局のデジタル戦略総室とか、専門的な知識を持つ方にも手伝っていただいているという、まだそういう状況でございます。

記者)

クラブ活動の連絡とかもこれでしていたというふうに聞いているんですけれども、そういう部分でかなり学校生活の中で不便なことが起きているかと思います。復旧の目途みたいなものを教えてください。

教育長)

現時点でどれぐらい期間がかかるかというのもまだちょっと申し上げられる状況にないです。(連絡とかを)アナログでやっているという状況なんですけれども、できるだけ早く復旧したいということで、今まさに努力しているところです。

記者)

今の質問に関連してなんですけれども、今回Microsoftのアカウント停止で、ドライブですとか

諸々のサービスに制限もかかることと思いますけど、現時点で学校にどういう影響が出ているのかなど、学校に対するヒアリングですとか影響に関する調査みたいなことが行われているのでしょうか。

教育長)

学校現場にこちらからのアプローチとして調査をするというよりも、色々意見を吸い上げているという、そういうやり方になります。

具体的には、一番大きいのは、今まで作成した教材がクラウドサーバーにありますからそれが使用できないとか、そういうことがあると改めて教材を作成しなければいけないとか、そういった支障がありますし、生徒の側も保存していたレポートなどを改めて見直すことができないとか、そういった支障が出ていると聞いております。先ほどの連絡とか申し込みとかも、これでやっていた部分についてはアナログに戻ったり、少し今まで便利にやっていたものができなくなっているという状況が続いています。

記者)

今、学校生活上の連絡とかに関してはMicrosoftアカウントのサービスで行われていると思うんですけども、授業への影響というところで、学校によって授業の中身が違うので一概には言えないと思うのですが、学校現場から何か声は聞いているんですか。

教育長)

強い意見はないですね。

記者)

学校の状況が違うので難しいのかもしれませんが、まだ(復旧の)目途が立たないということと、例えば対応の指針や相談窓口の設置など、県教委の方から学校に対する受け答えやリアクションというのは今後どういうふうに行われていくのか。

教育長)

現時点では、まずはいち早く復旧を急ぎたいということで、相談の窓口を設けて対応する予定は基本的にはないです。いち早く復旧させるという作業に全力をかける一方で、例えば、今まで授業で使っていた先生個人のタブレットを使えなくなっているわけですから、新しく貸出用のタブレットがあれば貸してくれとか個別の話については、高校教育課や教育情報化推進室が個別に対応していきたいと、今の時点ではそんな方針でいます。

記者)

類似の質問を知事の定例記者会見でもしたんですけど、アカウントが削除されているわけですが、復旧というのは完全な原状復帰を目指すという意味か、それとも新規のアカウントの整備の方向で使える状況にするという意味なのか、今の段階でお考えは。

教育長)

これも一長一短あります。一からやってしまうと、昔のファイルが本当に使えるかどうかということもあります。復旧したら当然そのアカウントとIDで入りますから、昔の自分の作ったレポートとかを見られる一方で、そのファイル自体が、本当にセキュリティが万全な状態になっているかどうかはちょっとわからないです。アタックされているからそこも確認しなければいけないので。どっちもメリットデメリットがあって、今は決めかねているところです。

新しいアカウントを付与するというやり方と、アカウントの復活というやり方と両方あるのですが、やはりメリットデメリットがあるので、それも含めて同時並行で検討しようというのが現状であります。

記者)

原因特定、原因究明に向けて、県警への相談も行っているところではありますが、被害について、現状をもう少し詳しく教えてください。

教育長)

捜査の内容については、実は、私どもに全く情報が入ってきていないということでもあります。ですの
で、ちょっとお答えできる内容はないですね。

記者)

例えば、内部の操作ミスとか外部からの侵入であろうとか、この辺については、現状どういう分析をされているんですか。

教育長)

外部侵入ですね。

記者)

外部侵入というのは間違いない。

教育長)

間違いないです。

記者)

警察の捜査もあるかと思うので、例えば調べるために、タブレットを提供したりってということもあるかと思うんですけども、そうなってくると、捜査が一段落つくまで復旧作業に取りかかれないのか、それとも捜査と並行して復旧に向けて進めていくのか、どちらでしょうか。

教育長)

並行してです。

記者)

万博が始まりました。小中学生への補助を募集されていたと思うんですが、現在の応募状況をお聞かせいただいてもよろしいでしょうか。

教育長)

3月31日時点で、20校について補助金の交付決定をしているという状況であります。交付申請が出てきて、内容を精査しているので、まだ交付決定まで至っていない学校も数校あると聞いています。

記者)

複数の私立高校での車椅子の受検生の受入れが問題になっている事例があったと思うんですが、教育委員会としての受け止めと今後の対応を求めることがありましたら、教えていただければと思います。

教育長)

その件については、私自身が、事実関係を報道の内容ぐらいしか承知はしていませんが、一般的に言えば、文部科学省の方からガイドラインも出ていますし、合理的な配慮というのが基本的な考え方と示されているので、それに基づいて対応するというのが一般的なことであろうと思います。

公立高校の場合は、学校を通じて、まずは対話していくというのを基本的なやり方としてこれまでもやってきておりますし、具体的に、合格して入学の意思を示されたときには、個別具体的に、その方とも意見交換をするという、そういうやり方を続けてきているというふうに認識しております。

記者)

先ほどの内容で、公立高校に関しては、合格した後に意見交換をされるという話だったかと思いますが、まず受検をする際に、その学校に入れるかどうかという時点で、生徒側から問い合わせがあったり、中学校から問い合わせがあったりすることがあると思いますが、その際、公立高校では、どのような対応をしているか教えてください。

教育長)

受検の際というよりも受検に当たってのことです。

受検に当たっては、「特別な措置」が必要なかどうかということの相談を受けるようにしていますから、まずは、学校経由でさせていただくというようなやり方にしております。

それによって、別室での受検とか色々な「特別な措置」が必要な方については、「特別措置願」というものを出していただいて、特別な対応をするということで、受検に当たってはさせていただいております。

記者)

受検での、試験での対応ではなくて、学校生活において、例えば、その学校にどういった設備があ

るのかとか、個別具体的にどういう対応ができるのか、例えば、介助ですとかそういった対応ができるのかというような相談についても、中学校を経由して乗っているということですね。

教育長)

はい。(相談が)あればですね。

記者)

県総務学事課の判断としては、要は、合理的配慮を提供するに当たっての建設的な対話が、結局、できていなかったという判断ではないかと思う。

方法としての対応が不十分だということについて行政指導するとおっしゃっているんですが、教育行政のトップとして、法律が改正されて、今回、私立高校でそういうことがあったということについては、どう思われますか。

教育長)

その行政指導の判断に至った根拠とかそういうのは、全く私は存じ上げていないんですが、先ほど申しあげましたけれども、法律があり、文部科学省のガイドラインがあり、それに沿って基本的にやっていたらいいのではないかというふうな感じです。

行政指導をすることなどがどのような動きになっているのか分かりませんが、その判断そのものに対して私の方からコメントするのは難しいと思っています。

記者)

県総務学事課では、所管する私立高校に同じようなことがないように周知していくということみたいなんですが、公立高校の方で改めてそういったことを周知徹底するみたいなことは、動きとしてありますか。

教育長)

一般的な話として、今回このような事案が起こったからということではなくて、一般的に色々な法令、あるいは、私ども、毎年毎年、高校受検の実施細目も定めていますが、それらの中で、合理的配慮のことは、校長先生方の頭にあるという認識でおりますけれども、色々なこういった事案も起こったので、改めてどうするか考えていきたいと思います。

記者)

再度周知するかどうかはまだ分かりませんか。

教育長)

まだそこまでは決めていないですね。

記者)

Microsoft アカウントの話で恐縮なんですけれども、先ほど外部侵入で断定されたかと思うんですが、断定された要因っていうのはどういったものなんでしょうか。

教育長)

そういうログが残っていたということだと思います。詳しくはうちの職員も色々、そのログを確認していますから。そういう形跡があったということだと思います。

記者)

ログというのは、その個別のアカウントに侵入したような痕跡ということなんですか。

教育長)

そうですね。

記者)

タブレットのIPに入ってきたような、そういう物的なということでしょうか。

教育長)

そこまではちょっと今お答えしにくいですね。

記者)

何かに影響するからでしょうか。

教育長)

捜査上どういう扱いになっているかが分からなくて。そのアタックで通ったのであればということで、他のシステムに同じような手法でアタックされる可能性がありますから、IPなのかアカウント攻撃なのか、そういうのを私がこの場で言うと、技術的なことはわかりませんが、影響が出る可能性もあるかなと思ってちょっと控えさせていただけたらと思います。

記者)

例えばですけど、侵入自体は別の端末から入ってきているということになるんですか。

教育長)

別の端末というのは。

記者)

別の端末からそのアカウントに入るとか、IPを辿るハッキングのようなルートとかを使っているのか。

教育長)

少なくともネットワークアタック事案というのは確かだと思っています。先生が操作を間違っアタックしたというものではない。

記者)

外部のネットワークからのアタックだと。

教育長)

そうだというふうに思っています。

記者)

外部侵入というのは、正規のルートではない、別のルートで入ってきた痕跡があるということでしょうか。

教育長)

それはなかなか申し上げにくいですね。

アタックの手法に関わることで、手法に関わることを言ってしまうと、同じアタックが繰り返される可能性があるということで、お答えは控えさせていただきます。

記者)

外部というのは、別のアカウントか何かで誰かがアタックをかけたとして、例えば内部の職員という可能性は否定できないということでしょうか。

教育長)

それはないと思っておりますけどね。外部からだと思う。

記者)

全くの第三者からという認識でしょうか。

教育長)

そうだと思います。

記者)

先ほど質問のあった万博の補助金の交付決定。これは小・中学校合わせてでしょうか。

教育長)

対象者全部合わせてですね。高校も対象ですから、小・中・高校あわせて 20 校です。

記者)

申請がまだ来ているというのは、今どれぐらい来ているのでしょうか。

教育長)

今のところ 6 校です。

記者)

20 校とは別に 6 校の申請があると。これが 3 月 31 日時点。

教育長)

はい。

記者)

高校生の内定率のことですが、過去 3 番目に高い内定率だったということですが、この数字自体を、教育長はどのように評価されていますか。

教育長)

内定率が高いということ自体は、いいことだというふうには思いますが、希望者がすべて希望のところに就職できるというのが理想なので、進路指導の先生方も、色々と子供に寄り添っていただいています。なお引き続き努力をしたいという受け止めでございます。

記者)

国際情勢というのは、おそらく今からまたさらに変わっていくのかなと思いますが、県内企業、県内経済に対しての懸念は何かございますか。

教育長)

それはよくわかりません。どちらに振れるかわからないので。

確かに、人手不足で有効求人倍率が 1.5 倍を超える水準が続いていますから、そういう意味で不安材料というのはありますけれども、全体としての経済的な影響がどういうふうに出てくるのか。リーマンショックのときもそうでしたが、香川県の場合は、産業構造的にあまり影響を受けなかったという事実がありますので、どちらに転ぶのかがよくわからないというのが今のところあります。

記者)

ネットワーク攻撃というのがよくわからなかったのですが、不正アクセスというイメージでしょうか。

教育長)

不正アクセスですね。

記者)

アクセスしてきたのは、教育委員会が使っているVPNみたいなものへのアクセスということでしょうか。

教育長)

技術的なことは詳しくわからないですけども、そこからしか入れないのではないかと考えています。

記者)

例えば、管理者権限がある端末を何者かが勝手に操作して入ったというのではなくてということでしょうか。教育委員会、もしくは高校単位でVPNを使っているのでしょうか。

教育長)

VPNは使っていない。外部からのネットワーク、インターネットを介しての侵入です。

記者)

ローカルのネットワークで、専用回線ではなくて、一般的な光回線ということでしょうか。

教育長)

専用回線ではなくて、一般回線です。

記者)

その回線に向かって外部からの不正アクセスがあり、何らかの操作で削除がされたということでしょうか。何らかの対策は。

教育長)

それはもうスーパーバイザーじゃないとできないですね。

記者)

県立の中高一貫校の設置について伺います。

これまでの協議会や、去年11月の県議会代表質問の中でも、具体的に設置に向けて検討を進めるということでしたけれども、その後、進展はいかがでしょうか。

教育長)

この件は、「県立高校の在り方に関する協議会」で議論することになっています。

大きいあり方の中のひとつの手法論としての中高一貫教育でして、今まさにその議論をしている

ところ。2回目の協議会が終わって、どこでどんなことをするか、具体的なことまでは議論は進んでいない。

ただ、中高一貫教育校を設置する方向で検討するというスタンスは変わっていないので、その協議会の中で議論していただいている。

記者)

教育長ご自身は、中高一貫校を設置する意義はどのようにお考えですか。

教育長)

やはり、6年間の学びの継続ということが一番のメリットではないかなと思っています。

記者)

逆にデメリットは。

教育長)

デメリットは、長く同じメンバーの中で学ぶと、切磋琢磨する環境が生じにくくなる可能性もあるのかなと思う。これは可能性の話ですが。

デメリットもあるでしょうが、それぞれの学校の先生、そして子供が、そのようなデメリットがないように経営していくのが一般的な経営のやり方だと思っています。

記者)

協議会の中では、小・中学生、保護者、高校を卒業した大学生にアンケートを取ってはどうかという意見もありますが。

教育長)

アンケートは取りました。今、集約・分析中ですから、その内容も協議会の委員の先生方に見ていただいて、議論をまた深めていただくということになります。OBの学生とは、アンケートではなく意見交換です。

記者)

結果は公表されますか。いつ頃でしょうか。

教育長)

公表します。もうしばらくかかりますが、そんなに遅くはありません。

(次回協議会を)まだ決めていないが、5月か6月には開く目途で考えています。

記者)

今年度末には具体的な指針を示されるということでしょうか。

教育長)

そういうスケジュール感で考えています。

記者)

それまでには、実際に、新たに中高一貫校を新設するとか、どことどこの中と高校を一緒にするとか、具体的な情報も出てくるのでしょうか。

教育長)

今年度末にということになると、時間との関係で、どこまでのレベル感でまとめられるかというのは今のところまだ何とも言えないですけれども、少しずつ、考え方や方向性が高まっていくイメージです。具体的には今から議論する中で、決められていくのかなというふうに思います。

記者)

県立高校の定員内不合格について、県議会でも話題になっていたが、現状は、校長判断で定員内不合格が出る可能性があるという答弁があったかと思う。

新年度に入り、定員内不合格が全国的にも問題視されてきている状況も踏まえて、今後、方針転換も含めて何か検討していく予定はありますか。

教育長)

今年度も定員内不合格が何人か出ている事実があります。校長、それと校長が指定する者ということで、学校ごとに合否判定をしています。それが現実であります。

これまでのやり方がどうなのかというのを、改めて、まずは内部的に議論したいと思いますが、やり方そのものが不適切なのかというと、そうだとは思わない。学校の中で今後3年間、教育をしっかり受けられる方なのかどうかという判定をするのは、学校現場の経営者である校長であり、その学校で学びを提供する教師集団であると考えます。彼らが判断した結果、不合格になる可能性も、それはあっても致し方ないのかなというのが今の考えであります。

記者)

もう一点、それに関連して、県議会でも話題にはなりましたが、文科省が行っている調査に対して、香川県は「原則(定員内不合格は)ない」という回答をしている。ただ、校長の判断で行うという選択肢もあるので、回答と実態が捻じれている印象を受ける。

教育長)

原則は(定員内不合格は)ない。結果論として、定員内不合格が出るという整理なので、そのような回答になっている。ただ、それではわかりにくいというのであれば、回答の内容を変えていく必要があるのかなというふうに思っています。

記者)

現状の県教委の認識としては、「原則、(定員内不合格は)ありません。ただし、校長の判断次第では可能性があります。」ということですね。

教育長)

はい。「原則、定員内不合格は出さない。ただし、各校長に判断を委ねた結果として、不合格が出る場合がある。」ということでございます。

司会)

他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、教育長定例記者会見を終了させていただきます。ありがとうございました。